

10 小学校3年生の歯肉炎および歯肉着色の傾向

○計良倫子, 本間和代, 小野真奈美, 木暮ミカ

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords: 小学校3年生, 歯肉炎, 歯肉着色

はじめに

新潟県の小学校3年生の一人平均う蝕歯数は年々減少しているが、歯肉炎症傾向（GOおよびG者率）は増減を繰り返している。我々は、新潟市立M小学校の全児童に対し、毎年歯科保健指導を実施しており、特に3年生については「総合的な学習」への支援依頼を受け、児童の口腔内の状況の情報提供やブラッシング指導等を行ってきている。指導を行う中で、児童たちの歯肉炎症状況に加え、歯肉着色が多いことに注目した。そこで今回、過去3年間の、歯肉炎症と歯肉着色の傾向について検討したので報告する。

対象および方法

対象：新潟市立M小学校3年生（平成24年度生：58名、25年度生：62名、26年度生66名、有効人数）
方法：平成24年5月、25年6月、26年5月に、児童らの口腔内正面観を撮影した。この口腔内写真より、歯肉炎症の有無および歯肉の着色度を判定した。判定基準は炎症なし：0、炎症あり：1とし、上下顎別に炎症部位数の合計を個人の固定値とした。また、上下顎それぞれの部位別炎症数についても調査した。着色の判定は、上下顎前歯部唇面の歯肉を着色なし：0、薄い着色：1、濃い着色：2の3段階とした。

結果および考察

1. 歯肉炎症部位数

平成24年度生では、上下顎共に3部位の者が最も多くそれぞれ、29.8%、42.1%であった。25年度生では、上顎は炎症なしおよび1部位が最も多く29.0%、下顎では5部位が27.4%で最も多かった。26年度生では上顎は炎症なしが最も多く36.4%、下顎では3部位が最も多く45.5%であった。どの年度

共、上顎に比べ下顎の炎症部位数が多かったことから、児童らにとって下顎よりも上顎の方が、ブラッシングがしやすかったと思われる。

2. 部位別歯肉炎症数

平成24年度生・25年度生共に、31-41（下顎中切歯間）に炎症のある者が最も多く、それぞれ96.5%、90.3%であった。26年度生では、31-41および41-42（下顎右側中切歯・側切歯間）に炎症のある者が最も多く69.7%であった。下顎前歯部唇面は他の部位に比べると歯肉が薄く、炎症が起こりやすいと考えられる。

3. 歯肉着色度

平成24年度生では、歯肉に着色のない者は22.8%、25年度生では19.4%、26年度生では28.8%であった。どの年度共、歯肉に着色のない者は少なくほとんどの者に着色が見られた。歯肉着色の原因には、受動喫煙の他、髪や皮膚の色、口呼吸等が考えられるが、今回はその詳細については調査していない。今後は、歯肉着色とその様々な要因との関係について調査・検討していく必要があると思われる。

まとめ

歯肉炎症部位数では、年度ごとに違いが見られたが、上顎に比べ下顎に炎症が多く、特に、下顎前歯部に炎症のある者が多かった。小学校3年生は、混合歯列期のためブラッシングが生き届かない部位も多く見られる。今後は、歯ブラシ以外の補助用具等も加え、児童それぞれに合わせたブラッシング指導に力を入れていく必要がある。また、歯肉の着色については、児童・保護者・学校の同意を得たうえで、その原因について検討する必要があると思われる。

参考文献

- 1) 三浦梢他, 小児の歯肉のメラニン色素沈着に関する研究, 小児歯誌, 49 (1): 11-19, 2001